

小平のこと言いたい、聞きたい  
議員といつしよに話す会

## 防災をテーマに活発な意見交換

生活者ネットワークでは、年4回「議員といつしよに話す会」を開き、介護や自転車利用、まちづくり、子宮頸がんワクチンについてなどをテーマに、意見交換をしてきました。今回は防災について取り上げたところ、多くの方にご参加いただき、市民のみさんの関心の高さがうかがえました。参加者からは、今年の大雪で感じた子どもたちの通学路の確保や支援物資の搬送方法、災害時には全て頼れな



5月28日、小川西町公民館を会場に、3人の市議と市民が話し合った。

い場合もあるので、自宅でのサブイバル生活を覚悟して道具を揃えていること、また、阪神淡路大震災で避難所生活を経験された方からは、女性の視線がとても役に立つと実感したという貴重なお話し。情報発信や防災訓練、備蓄、避難所運営など…：意見が次々と出され、問題点などを共有することができ、有意義な会となりました。今後、市では避難所運営マニュアルなど個別計画を策定する予定ですが、市民の声を反映したものにしなければなりません。計画への市民参加を求めつつ、生活者ネットワークとしてもこの日いただいた多くのご提案をこれからの政策につなげていきます。



## 今年も福島の子どもたちがきました！



ゴールデンウィーク中の5月3～6日、福島県内の子どもたち26人が小平に遊びに来ました。市内の幼稚園に1泊、2泊目からは市内の家庭にホームステイをしての4日間です。

1日目は園庭で駆け回り、2日目はきつねっぱら公園（子どもキャンプ場とプレーパーク）で木工やハイジブランコ、穴掘り、ベーゴマ、迷路などの自由遊び、3日目は狭山市の丘陵でのハイキングと外遊びを満喫しました。

震災後、毎年続いている福島の子どもの招待。このことをきっかけに市内の大学に入学した福島の若者もいるそうです。小平からできること——まだまだたくさんありそうです。

## シンプルで誰でもできるタッチングタッチ

——被災地でもセルフケアとして活用——

生活者ネットワークの金曜サロンに山崎裕子さん（タッチングタッチ認定インストラクター）をお招きし「タッチングタッチ」を体験しました。指先のやわらかいところを使い左右交互に軽く弾ませるようにタッチしていく手法で、一人でも二人でも誰でもできます。1ヶ所30秒ほどタッチ。「あ、ふれてるな」と感じるくらいの軽いタッチですが、しばらくすると緊張がとけてリラックスし、お互いあたたかい感じになります。

山崎さんは、被災地にも出かけて、タッチングタッチが心のケアにつながっているという話も伺いました。

タッチによって与えあえる関係がつけられることで身体と心のケアにつながることを実感するひとときでした。

